

口腔の感覚

アクティブタッチ

口腔の感覚は非常に優れています。これは、食物の食感や味を感じ取るだけでなく、体内への入り口である口腔は異物を認識し、時にはそれを排除する必要があるからです。

髪の毛1本の太さを0.06~0.1 mmとすると、その大きさを感知できる仕組みが口腔には備わっており、特に舌は、そのセンサーとして重要です。さらに口腔内にある物の位置や形、硬さ、弾力性などを認知する仕組みを考えると、顎(あご)や舌が静止しているのではなく、動くことによってよりよく感じるができます。舌の先端は、全身で最も敏感な部分ですが、さらに舌を動かす時の情報も、舌の感覚に関与しています。

このように触れる感覚(触覚)と、運動感覚から得られる情報を合わせて行う感覚を「アクティブタッチ」といいます。よく知られている例としては指を動かして物に触った場合と、単に物が指先に触れた場合とを比べると、指を動かした場合の方が、認知する能力は優れています。

それではなぜ舌は巧みな動きが出来るのか。舌の中心部に種々の方向に走行する舌筋(ぜっきん)が存在します。さらにこの舌筋は7種類にも区分され、舌を太く短縮させたり細く伸ばしたり、平らに広げたり、さらに咀嚼(そしゃく)の時には食べ物を左右に動かしたり、嚥下(えんげ)の時には喉に運ぶなど、実に器用にできています。



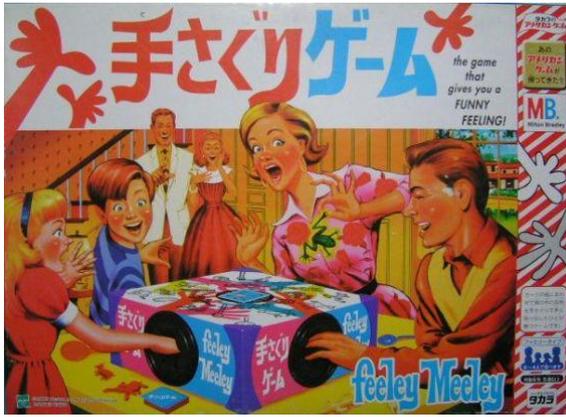
■ 焼肉店のタン塩、タンとは舌を意味する英語の「Tongue」の音に由来しています。肉や野菜はその繊維の切り方ひとつで食材の味や食感が変わることはよく知られています。

舌の仕組みを考えると、このタン塩のスライスされた1枚には実に多くの繊維の方向が一度に味わえる、独特の食感が人気の秘密なのかもしれません。



話をもとに戻しますが、口腔内は自分では見えないところであり、いったん口腔内に物を入れると、視覚を使った認知はできません。

舌の先端が、非常に敏感なセンサーを持っていることに加え、以上のように、舌が巧みな運動で探索できることは、人体にはとても重要なことなのです。



懐かしい昭和時代のゲーム

<引用・参考文献>

監修 森本俊文「口腔の生理から？(どうして)を解く」(株)デンタルダイヤモンド社(2007)

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

